

## 12月1日 公述人3（会場①国土交通省関東地方整備局下館河川事務所）

### 意見の概要

- ・30年以上前に入団した頃の頃に対岸ではあるが昭和61年小貝川の豊田地先での応援のため水防活動中に目前で堤防が決壊するさまを経験した。
- ・当時は小貝川の水位が上昇するにつれて堤防に隣接する田畑の至るところで古墳のように土が隆起した。後に聞いたことだが、堤防に水が浸透したことでモグラが田畑に逃げてきたため土が隆起したとのことであった。
- ・昭和61以降の洪水では、小貝川の水位が上昇しても田畑の隆起が見られなくなった。シートパイプで遮水したおかげだと思っている。
- ・金村別雷神社のところも昭和60年に築堤を施工したおかげで翌年の洪水から左岸側が守られた。
- ・先日の台風19号や平成27年9月の関東東北豪雨など、経験したことがない豪雨が頻繁に発生している。
- ・現在では、高水敷に樹木も繁茂しており、洪水の度にいつ溢れるのか心配である。
- ・消防団として水防活動（堤防の見回りなど）の際にも、堤防天端の幅員が狭く、危険を感じることもある。
- ・これまでの経験を若い世代に伝え、安心して暮らせるように、一日も早い堤防整備の重要性とソフト対策の充実について意見を述べたい。